

# ふらりらいふらりい

～図書室にはこんな本があります～

## No. 6

来館者の方からの質問事項をもとに昭和館図書室の図書を紹介します。

※書名の後の( )内の数字は請求記号です。

問 当時の流行歌について調べたい。

答 1. 特定の曲名がわかっている場合。(例えば、「東京ブギウギ」の場合)

検索方法は来館者用検索画面で

図書・雑誌 ⇒ 図書 ⇒ ことば ⇒ 東京ブギウギ

で、『日本流行歌史 中』(767 Ko66 2 開架)など3件あります。

※ 本によって目次表記が異なる場合、入力した表記が一致しないと該当件数に反映されないことがあります。

例) りんごの歌→9件 りんごの唄→8件

2. 特定の曲名を入力しても該当するものがない場合や、  
曲名がわからない場合など。

図書・雑誌 ⇒ 図書 ⇒ ことば ⇒ 流行歌

で、『添田唾蟬坊・添田知道著作集 4』(779 So21 4 開架あり)

『最新流行歌集』(767 N71)、『最新流行歌集』(767 Sh64)

など30件あります。

【参考】添田唾蟬坊(1872-1944): 明治～昭和期の演歌師・詩人。

作品に「ラッパ節」の他、「ストン節」「枯すすき」などその数は極めて多い。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！！・・・ ⑤

いろいろ本を引っ張り出してみるうちに、案外と写真集が多いことに気がつきます。図書が事件や事柄の記録とすれば、写真は時代と空間の記録です。ある場所、ある時間の一瞬を切り取った写真は、文字では表せない「真実」の一部を伝えています。空襲で焼け野が原になった東京の姿を、いくら文字で書き連ねても分かるものではありません。しかし、1枚の写真は、その悲惨な情景をたちどころに伝える力を持っているのです。

と言うわけで、今回は写真集です。

まず、「一億人の昭和史」（毎日新聞社）シリーズがあります。これは初め毎日グラフの別冊として始まりましたが、あらゆるテーマの写真を集めて数十冊になり、最後は「決定版・昭和史」として纏められました。他の新聞社は終戦の折に写真資料を焼却したのですが、毎日新聞社は「焼き忘れて」貴重な写真が残ったものです。このような組織として撮影された写真以外に、たった一人で昭和初期から戦後にかけて写真を写しつづけた人もいます。

「痛恨の昭和」「東京大空襲の全記録」（岩波書店）等の写真を撮影した石川光陽氏や、長野県で自分の村の生活を記録しつづけた「ふるさとの昭和史」（岩波書店）の熊谷元一氏が代表的な物です。特に石川氏は警視庁のカメラマンとして一般人の撮影できなかった場所でも自由に撮影できたので、歴史的に極めて貴重な写真が残されています。この写真は、戦後米軍に没収されそうになったのを隠しておいたものです。

また、戦前からのプロカメラマンの作品としては、「報道写真の青春時代」（講談社）があります。この写真の中には、今は失われた戦前の日本人の“普通の生活が”残されています。家庭の食事、学校、遊び・・・工場、働く人々・・・どの1枚からも、時代の空気を感じることが出来ます。

ただし・・・と最後に書かなくてはならないのが写真なのです。写真は写っている範囲においては、確かに「本物」なのですが、説明次第で全く違う情報を伝えることにもなるのです。また、報道写真の中にはいわゆる“演出された”ものがあることも知らなくてはなりません。こういったことを考えながら、1枚1枚写真を見て行くと、更に深い理解が得られるのではないのでしょうか。

写真集の多くが開架書架に置いてありますので、手にとって見てください。またかなり多くの写真が5階の情報室の端末でも検索閲覧できるので、ご覧になってください。

さて、今回は、東京の盛り場の今昔をたどって見ましょう。 (午睡)

— 図書室から —

空の青さに木々の彩りが映える時期になりました。朝晩の寒さとはうって変わって、陽だまりの暖かさに思わず深呼吸…。とはいえ、風邪に要注意の季節到来です。

\*検索端末を使いましょう。

読みたい本、雑誌を書名やことばで探してみましよう。図書室で所蔵している資料の書名や目次から該当のデータをひっぱってきます。まず、画面に触れてみてください。

わからない場合は、カウンター職員が皆さんのお手伝いをします。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 6  
1999年11月23日 発行  
編集・発行 昭和館 図書室  
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1